



「花の街ふかや映画祭」で ロケ地マップを作成



NPO
法人

市民シアター・エフ
(深谷市)

企業

深谷商工会議所
(深谷市)

2010年で7年目となる「花の街ふかや映画祭」で、NPO法人と商工会議所の協働により、市内のロケ地巡りのためのマップを作成・配布した。深谷市は、多数の映画作品のロケ地でもあり、映画を切り口に市内観光のアピールができた。

協働のきっかけ

旧銀行の建物を深谷市が借り受け、商工会議所が管理し、NPO法人が家賃を支払う方法で「深谷シネマ」がスタートした。

現在はNPO法人が江戸時代の酒蔵である旧七ツ梅酒造跡に映画館を移転し、ロケ地としても頻繁に利用されるなど、フィルムコミッションの役割も果たしている。

今回の「花の街ふかや映画祭」では、市内で撮影された話題作『ゲゲゲの女房』の上映をきっかけに、ロケ地マップを作成し、観光客に配布した。

キーワード

ロケ地 観光振興

協働のメリット

NPO
法人

商工会議所が、会員企業をはじめとした関係者に対して、映画祭のポスターやチラシの配布といったPR活動など、さまざまな場面で毎年力を貸してくれる。

行政の協力を得る際や、テントやイスを借りることへの協力を呼びかけてもらえることもありがたい。NPO法人のスタッフの数は限られているので、こうした協力があって開催できている。



企業

NPO法人の取組は、市の映像文化に対するイメージづくりに重要な役割を果たしている。映画祭ではインディーズの映画を上映し、若い人が集まってくれた。

今後、「映画のまち」として知られ、ロケに使われることで食事や宿泊への需要が生まれ、ロケ地マップを片手に町歩きをする観光客が増えることを望んでいる。

苦労・工夫したこと

NPO

映画祭はお金がかかる。フィルムレンタル代は高額で、有名作品の上映やゲストを呼ぶなど、やりたいことはたくさんあるが実現できない場合も多い。

今は、インディーズ上映をメインにした「映画祭」としている。「映画祭」の運営にはボランティアスタッフとして若い方々が多く参加している。

企業

映像に関して素人であるため、映画祭で駆け出しの監督の作品を募集し、評価することは難しい。映像に明るいNPO法人と何度も相談しながら進めている。